

ある雑誌で、全国の様子に詳しい団地愛好家が、「お気に入りランキング1位」に選び紹介された常盤平団地を中心に、常盤平周辺の見どころをめぐる絶好のコース。自然観察やバーベキューが楽しめる、松戸の奥深い歴史もわかるロングコースを私たちと一緒に歩いてみませんか？

私たち女子大生2人が
団地周辺の歴史の案内人です。



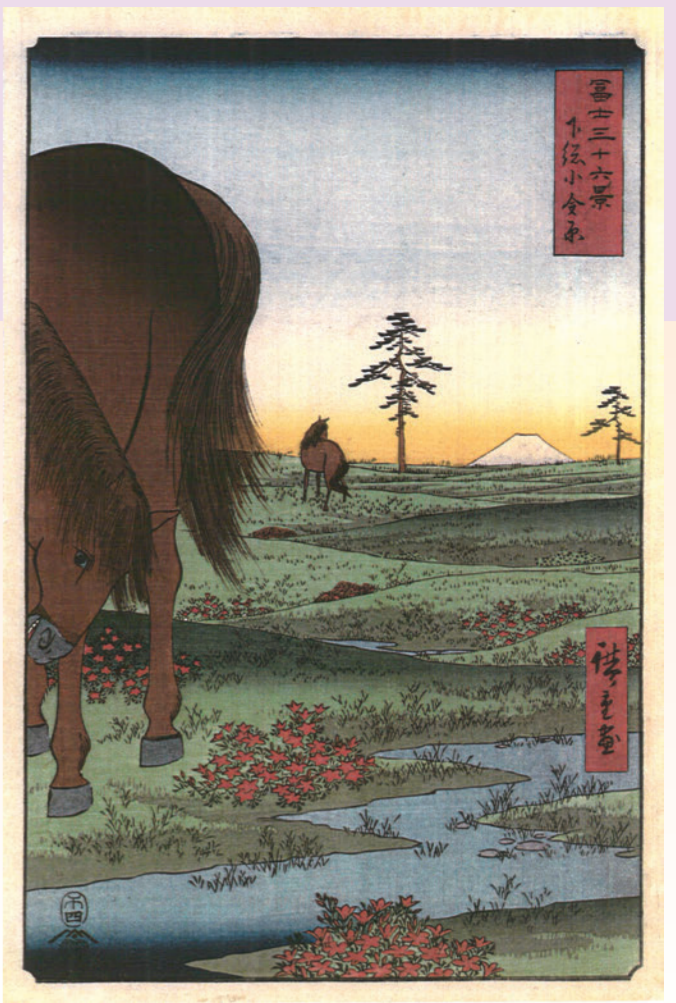
2回に分けてお楽しみコースです。

常盤平は、江戸幕府直轄の馬の放牧地であった小金牧の中央に位置します。1,000頭もの野馬が走りまわり、徳川将軍の御鹿狩が4度も行われた小金牧の様子は、歌川(安藤)広重の浮世絵に見ることができます。

また江戸時代中頃、銚子で水揚げされた鮮魚を江戸・日本橋へ運ぶため、現在の五香駅付近、子と清水、八柱駅付近を通り(松戸)納屋川岸に向かう道は「鮮魚街道」と呼ばれ、年間でのべ4,000頭もの馬が通行していたようです。

広重 富士三十六景 下総小金原 (船橋市西図書館所蔵)

※「小金原」とは馬の放牧場の呼び名で、現在の地名とは異なります。



お問い合わせ

松戸市役所 都市整備本部 都市緑化担当部 都市計画課 景観担当室
TEL. 047-366-1111 (代表) / 047-366-7372 (直通)

製作協力

聖徳大学児童学部児童学科児童文化コース
猪股 杏奈さん 岩崎 美樹さん 岩下 孝子さん 刈込 茉莉さん
上田 早苗さん 先崎 真琴さん 田中 朗代さん 千葉 恵美さん

1 さくら通り (さくらまつり)

新京成の五香駅から八柱駅まで約3kmのさくら通り。春にはソメイヨシノなど630本が桜花のトンネルを形成します。このうち480本の桜は、常盤平団地造成の際に植えられたもので、さくら通りは1987(昭和62)年に、建設省(現 国土交通省)の「日本の道100選」に選ばれています。

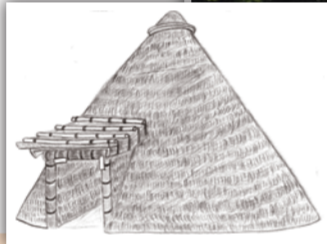
また毎年4月上旬の満開の時期には「常盤平」「八柱」でさくらまつりが開催され、例年合わせて70万人もの人が訪れています。「常盤平さくらまつり」当日は、日中歩行者天国となり、さまざまな露店も並びます。日が暮れてからも夜桜見物の人や車の列が続き、夜遅くまで賑わいが絶えません。



2 松戸市立博物館

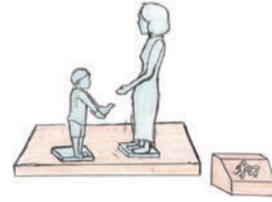
21世紀の森と広場の中に建っているこの博物館は、旧石器・縄文時代から現代までの松戸の歴史を感動的に教えてくれます。基本コンセプトは「見て・触れて・体全体で感じる」となっており、縄文時代の布である「編布(あんぎん)」を織んだり、綿から糸車を使って、糸を紡ぐことが体験できます。また屋外には縄文時代の竪穴式住居もあって、中に入ることができます。

利用時間 9時30分～17時 (ただし入館は16時30分まで)
入館料 無料 (常設展と一部企画展等は有料)
休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日)、毎月第4金曜日
年末年始 (12月28日～1月4日)
問合せ先 松戸市立博物館 電話047-384-8181



6 常盤平団地・星形住宅 (スターハウス)

新京成電鉄(松戸-津田沼間)が全線開業した1955(昭和30)年、わが国初の大規模団地として計画(1962年日本都市計画学会賞受賞)が発表された常盤平団地は、1960(昭和35)年4月から入居が始まりました。大きく育った樹木の奥に、中層の集合住宅が立ち並ぶこの団地は、起伏ある地形を活かしたタイプの異なる建物と樹木を組合せてレイアウトすることで、表情豊かな住宅地景観を形成しています。特にこの団地に10棟ある「星形住宅」と呼ばれる建物は、Y字型に3戸を配置し、中央に階段室を設け、テラポットのような特徴のある構造になっていて、各戸とも、日当たりがよく、プライバシーが保たれる工夫がなされています。



昭和30年代の団地室内の様子 (市立博物館で復元展示しています)



7 けやき通り

常盤平のメインストリートであるけやき並木は、常盤平駅前通りとして、ゆるやかにカーブしながら緑のトンネルのように続いていきます。駅と子と清水を結んで、団地造成の際に植えられたけやき約180本は、今では20mあまりの高さに育っています。1994(平成6)年には、読売新聞社が新聞創刊120周年を記念して行った「新・日本の街路樹100景」に選ばれました。



3 21世紀の森と広場

21世紀の森と広場(1994年日本都市計画学会賞を受賞)は、松戸市のほぼ中央部に位置しています。「千駄堀の自然を守り育てる」をコンセプトに、湧き水が育む千駄堀池を中心に斜面林・谷津・湿地などの自然資源を活かした緑地空間を形成しています。公園周辺の大きな農家を含めて、里山の景観を見ることができ、公園の中央をまたぐ橋(1989年土木学会賞を受賞)からは雄大な夕焼けを楽しむことができます。公園北口近くにはアウトドアセンターがあり、気軽にバーベキューも楽しめる施設(完全予約制)があります。

開園時間 9時～17時 (ただし開園時刻は 7月21日～8月20日 が 18時30分
11月1日～2月末日が 16時30分)
休園日 12月30日・31日、1月1日
問合せ先 21世紀の森と広場管理事務所 電話047-346-0121



公園通り



アウトドアセンター



パークセンター



広場の橋



森のホール21

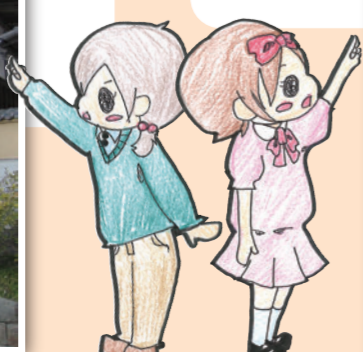
4 あんびるけながやもん 安藤家長屋門 (市指定有形文化財)

長屋門は武家屋敷などに見られる門のひとつで、出入口の左右を使用人の居所とする長屋形式のもので、江戸時代には、家格の高い農家などでもつくることを許されますが、生活の違いや地域性などによって形式や規模に違いが見られます。安藤家の長屋門は、棟札から1840(天保11)年、つまり今からおよそ170年前に建てられたことがわかります。下総地方西部の長屋門のうちで、最も古いもののひとつです。松戸市内に現存する中でも規模が大きく、建築年代・施工大工が明確で、江戸時代の建築技術を伝える貴重なものです。



5 高木小学校のくすの木

高木小学校のくすの木は、日本一の鹿児島県薩摩半島のくすの木や徳島県加茂の大くすには及ばないものの、幹周り5.65m、高さ24mの巨木で、市の保護樹木として指定されています。1912(大正元)年高木小学校が建設された時に市内の小学校から移植されました。当時は高さ3.5m位だったそうですが、今は子どもたちの成長を見守る学校のシンボルとして、地域の方々にも愛される巨木となっています。ちなみに、近くの小さいくすの木とは、親子だろうといわれています。



8 こわしみず 子と清水

伝説をモチーフとした「子と清水之像」は、1992(平成4)年6月に松戸東ライオンズクラブが結成10周年を記念してその由来を記して建立したものです。子と清水の由来は、むかし、この近くに住んでいた酒好きな老人が、貧しい暮らしにもかかわらず、外から帰る時には酒に酔っているのを不思議に思った息子が後をつけてみたところ、父はこんなと湧き出る泉を手ですくって、うまそうに「ああ、うまい酒だ」といって飲んでたということです。しかし、父の去った後に息子が泉の水を飲んでみると、それはただの清水だったということで、この話を聞いた人々が「親は古酒、子は清水」と言うようになったということです。ちなみに、各地にある子と清水、古和清水などはこうした伝説による泉です。



9 小林一茶の句碑

「母馬か 番して吞ます 清水かな」一茶は馬橋、流山を第二の郷里として多くの遺作がありますが、旅の途中で目にした小金牧について詠った句を多く残しています。この句は1819(文政2)年、57歳のときに詠まれたものですが、子と清水が鮮魚街道を往く人や馬の飲み水となり、農家の人たちの生活用水として貴重な湧き水であった様子を伝えています。



10 金ヶ作熊野神社

金ヶ作は、元武州川越藩郷士の石川彦次右衛門が新田開発を計画し、1782(天明2)年に開拓を始めました。ところが翌年7月6日浅間山の大噴火によって大量の火山灰が降り、田畑が大被害を受けました。そこで急ぎ、氏神様を祭るため、紀州和歌山の熊野本宮より御魂を拝受し、その分社として祭神されました。社殿前に高くそびえる御神本は、「なんじゃもんじゃの木(まてばしい)」と呼ばれ、秋には大きなドングリの実を幹の周りに落とします。また、この木の根本には熊野本宮を訪れた氏子が持ち帰った榎の木が植えられています。榎の木は昔から夫婦和合、旅行・交通・海上・安全、心願成就などのお守りとして、人々がその葉を懐に入れて帰る風習があったそうです。



景観重要公共施設について

景観の素晴らしい道路や公園が多いのも、この地区の特色です。市では周辺と一体となった景観形成を一層進めるため、「さくら通り」、「けやき通り」、「21世紀の森と広場」とその中央を通る「公園通り」を、「景観重要公共施設」に指定しています。周辺の建物はこうした施設を大切にし、その価値をさらに育むため景観に配慮してください。

